

News Release

PCAN-Explorer 6 version6.6 リリースのお知らせ

2016年6月9日に PCAN-Explorer 6 の最初のリリースが行われました。それから6年、PEAK-System 社はアップデートを提供し続けています。PCAN-Explorer 6 のライセンスをお持ちの方は、無償でアップデートが可能です。

PCAN-Explorer6 のバージョン 6.6 では、CAN バスの開発・検証用の特別な機能をサポートするようになりました。

- フレーム開始時のタイムスタンプ（End-of-Frame に代わり）
- フレーム送信時の Self-Acknowledge
- ビットレートスイッチ（BRS）の CAN-FD フレームの無視

特別な機能を使用するには、PCAN ドライバーのバージョンが 4.3.0 以上であり、使用する CAN インターフェイスとそのファームウェアのバージョンが使用する機能をサポートしている必要があります。

J1939 アドインは、データベースが更新され、現在 2022-5 となっています。他のアドインも改良されました。全ての変更点は Version histories に記載されています。

なお、PCAN-Explorer6 V6.6 は、windows10 または 11 でのみ動作します。インターネットに接続できる環境であれば、ヘルプメニューから PCAN-Explorer6 を快適にアップデートすることができます。

【主な更新機能】

- CAN コントローラーの新機能である 'Timestamps at Start-of-Frame', 'Tx Self-Acknowledge' 及び 'Ignore BRS' のサポートを追加しました。
- コピープロテクションドングルのプラグアウト後、アプリケーションがシャットダウンするまでの時間を 60 秒に延長しました。
- 接続を有効にする際、または接続を有効にしたプロジェクトをロードする際に、すでに初期化されている CAN インターフェイスのハードウェアオプションをプロジェクトに保存されている設定で上書きする機能を追加しました。
- 多くの小さなユーザーインターフェイスとパフォーマンスの改善。

【バグフィックス】

- Windows 11 において、Edit Message ダイアログボックスの一部が正しく描画されなかった問題の修正
- Select Signal ダイアログボックスで Filter ドロップダウンリストの選択を変更するとアクセス違反が発生する可能性があった問題の修正
- J1939 接続のエラーフレームプロパティを Project Setting ダイアログで構成できなかった問題の修正
- Edit Variables ダイアログボックスに入力されたタイプ 'Raw' の変数の値が、常にデータバイト 0 から始まる CAN メッセージに保存されていた問題の修正
- コールバック DLL がロードされない場合、Callback Library ウィンドウが適切に処理されない事があった問題の修正
- ツールバーの Macro ドロップダウンリストに、既に存在しない Standard Macro の項目が含まれていることがあり、特定の状況下で選択したマクロの項目に対してマクロ実行コマンドにアクセスできないことがあった問題の修正
- Object Model: ReceiveMessages コレクション、Tracer オブジェクト、または Connection オブジェクトの Filter プロパティを NULL/Nothing に設定しようとする、Access Violation エラーが発生することがあった問題の修正
- Object Model: IPEMessage から派生したインターフェイスから DataArray プロパティ経由で取得した SafeArray は、.Net を使用するアドインでの問題を回避するために、所有している Message オブジェクトと同じだけ存在するようになりました。

【変更点】

- Windows10 以上が必要になりました。
- セットアップには、旧式の PEAK Hardware コントロールパネルが含まれず、PCAN Nets Configuration と PCAN Status Display ツールの新しいメジャーバージョン (v5.0) が付属しています。
- PCAN-API2 ライブラリ (CanApi2.dll) は、インストールに含まれなくなりました。